

## ATHENA LIBRARY OF AMERICAN STUDIES

## 【アメリカ研究基本文献シリーズ】

## Part 4, Vols 13–17 : Regional History, First Series

ISBN 4-902708-40-X C3322 ・ 全5巻セット定価 89,000円(税込 93,450円)

## ニューイングランド植民地の実生活を活写する基本的研究資料の復刻

**Volumes 13 & 14 : William Babcock Weedon**  
*Economic and Social History of New England,*  
 1620–1789 (1890)

ISBN 4-902708-41-8 C3322 ・ 994 pp.

全2巻セット定価 36,000円(税込 37,800円)

17-18世紀のニューイングランド地方の社会経済史における基礎的研究。社会生活を基盤とした経済活動についての論考であり、あまり知られていない地方の歴史、手記の類いなど、多岐に渡る一次資料に基づいた著作。日常生活の細かい記述とともに、物々交換と初期の貨幣、海賊行為、毛皮取引、商品価格と賃金、捕鯨やタラ漁、土地保有、町の組織・運営、家内制手工業などが論じられている。

The Founding of New England • Aboriginal Intercourse with the Colonists • Formation of the Community, 1630–1640 • Agriculture, Fish, and Furs, 1621–1639 • Opening of Commerce, 1631–1662 • Rise of Homespun Industries, 1640–1642 • The Working of the Navigation Acts, 1662–1685 • The New Englander in His Home, 1663–1690 • Privateers, Pirates, and Their Relations to Commerce, 1686–1713 • Domestic Development in the Dark Days, 1690–1713 • The Whale Fishery, 1713–1745 • The African Slave-Trade, 1708–1764 • The Period of Inflation, 1713–1745 • Commerce after the Treaty of Utrecht, 1713–1745 • Peter Faneuil and the Last Generation of Dependent Colonists, 1725–1742 • Commerce from Louisburg to Quebec, 1745–1759 • The Last Period of Colonial Dependence, 1745–1762 • The Stamp Act and Rebellion, 1763–1775 • The Last Colonial Commerce, 1760–1775 • Revolutionary Commerce, 1775–1783 • The Greater Community Forming Itself into the United States of America, 1775–1783 • The Commerce of the Confederation, 1783–1789 • The Confederation Seeking Unity in the Republic, 1783–1789 • Appendices • Index

**Volume 15 : Mary Caroline Crawford**  
*Social Life in Old New England* (1914)

ISBN 4-902708-42-6 C3322 ・ 530 pp., 32 pl.

20,000円(税込 21,000円)

子供の教育、町議会、結婚、家庭生活、余暇・娯楽、葬儀、宗教儀式など、植民地時代のニューイングランド人の日常生活についての古典的研究書。本シリーズのPart 1に含まれるこのジャンルの先駆者アリス・モース・アールの著作を引き継ぐ内容を持つ。

In the Little Red Schoolhouse • Going to College • Choosing a Profession • “Tending Meetin’” • Getting Married • Setting Up Housekeeping • Keeping a Diary • Having a Picture Taken • Reading Books • The Occasional Journey • Singing Schools and Kindred Country Diversions • Amusements of the Big Town • Funerals as Festivals • St Pumpkin’s Day and Other Honored Holidays • Christmas under the Ban • Index

**Volume 16 : Robert Means Lawrence**  
*New England Colonial Life* (1927)

ISBN 4-902708-43-4 C3322 ・ 286 pp, 1 pl.

15,000円(税込 15,750円)

ニューイングランド植民地の社会生活研究の基本書のひとつで、特にボストン植民地に焦点を合わせた生活文化史研究書。社会生活全般を網羅し、地理、気候、住環境、インフラ整備、移動手段など物質的な面にも多く触れている。

Some Features of Pioneer Life • The First Homes • Indian Neighbors • Climate • Wild Animals • Primitive Modes of Travel • Stage-Coach Days • Old Boston: the Common; robbery on the Common; the Public Garden and Back Bay Flats; traffic regulations; the town watch; omnibus lines; hackney cabs; home and street lights; house and church warming; the town water supply; ringing the church bells; early markets; the beginnings of the town fire department; the town criers • Popular Prejudice against the First Railways • Sunday Observance in Early New England

**Volume 17 : George Francis Dow**  
*Every Day Life in the Massachusetts Bay Colony*  
 (1935), bound with *Domestic Life in New England in the Seventeenth Century* (1925)

ISBN 4-902708-44-2 C3322 ・ 308 pp., 46 pl.; 58 pp., 10 pl.

18,000円(税込 18,900円)

マサチューセッツ植民地をはじめとする北部イギリス植民地の物質文化についての重要な研究。本書序文にもあるとおり基本資料集成として企画されたもので、多数の図版、当時の出版物、新聞、統計をはじめとする多様な一次資料からの引用が用いられている。著者は、ニューイングランドの史跡保存事業に関わっており、植民地時代の生活を再現しているメトロポリタン美術館“American Wing”の開館時に著者が行った記念講演もあわせて採録した。

The Voyage to New England • Their Early Shelters and Later Dwellings • How They Furnished Their Houses • Counterpanes and Coverlets • Concerning Their Apparel • Pewter in the Early Days • The Farmhouse and the Farmer • Manners and Customs • Sports and Games • Trades and Manufactures • Concerning Shipping and Trade • From Wampum to Paper Money • Herb Tea and the Doctor • Crimes and Punishments • Appendices • Index  
 Bound with *Domestic Life in New England in the Seventeenth Century: a discourse delivered in the lecture hall of the Metropolitan Museum of Art in New York City, it being one of a series designed to mark the opening of the American Wing*

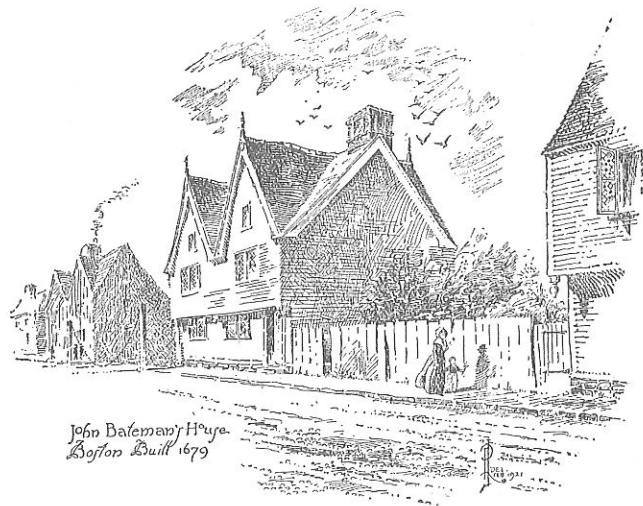
## 古きニューイングランドの生活臭を蘇らせる好著の復刻

大西 直樹 (国際基督教大学教授)

初期アメリカ研究に必要な第一次資料は最近のデジタル化によって、不便なマイクロフィルム閲覧から解放された。1820年までアメリカで出版されたものは、エヴァンズやシューメイカーの作り上げた網羅的文献リストを基礎に、日本にいながらにして、あるいは自分の書齋で調査研究できる環境が整ってきている。それ以外の資料としては、手筆原稿のまま残っている書簡や日記などがあるが、その調査には現地に行くほかない。

それらと同様、意外にも入手しにくく、初期アメリカの時代を身近に感じていながら、一次資料としての価値もなく、学問的に時代遅れになり忘れられているものが、19世紀後半から20世紀初頭に出版された著作である。主観的で印象的な判断が散見され歴史学に必要な客観性にもと<sup>も</sup>悖るといわれるこれらの著作には、その時代の持っていた学問的方法論の限界が見られるのは当然であろう。しかし、その背後に、初期アメリカの文化、生活、人々の気質など、歴史学研究の二次資料からはなかなか伝わってこない具体的な生活感覚や生活臭が感じられるところがあり、そこに捨てがたい価値が存在している。

つまり、すでにこれらを一次資料として対象にすることで展望の開ける研究の可能性が確実にある。初期アメリカのその当時は書物として印刷するまでもなく、人々の生活感覚の中に埋没されて、ただ受け継がれていたものが、次の世代によって思い起こされ出版されるということがある。例えば、メアリー・キャロライン・クロフォード (Mary Caroline Crawford, 1874-1932) の *Social Life in Old New England* (1914) には、料理とか行事、服装や娯楽、子供の遊戯などの日常的生活文化の細かい描写があり、その当時すでに忘れかけた風習や習慣には興味深い点がいろいろと散見できる。ことに、“Christmas under the Ban” という章があるが、ここにはニューイングランドのピューリタン色の強い地域ではクリスマス行事には聖書の根拠がないと禁じていたにもかかわらず、民衆レベルではクリスマスの祝祭をもとめる動きが根強かったことが描かれている。さらに、いまだに愛読者の多いジョージ・フランシス・ダウ (George Francis Dow, 1868-1936) の好著、*Domestic Life in New England in the Seventeenth Century* (1925) は、ニューヨークのメトロポリタン美術館での講演をもとにした著作で、17世紀ニューイングランドの家屋、そこでの食事、労働、そして社会生



活と犯罪について、一通り論じたものである。その10年後に出版された大著、*Every Day Life in the Massachusetts Bay Colony* (1935) の最終部分には、当時の家屋建設に関する契約書、サミュエル・スケルトン牧師がマサチューセッツ植民地当局から支給された物資のリスト、など具体的な一次資料が収められている。しかし、何とんでも興味深いのが、エセックス・カウンティーで勃発した魔女事件について、1650年に裁判が行われている記述で、セイラムだけが魔女裁判事件を起こしたのではなく、かなり様々な地域で、時期的にも早いころからおこっていたことが分かる。そして、ウィリアム・バブコック・ウィーデン (William Babcock Weedon, 1834-1912) 著、*Economic and Social History of New England, 1620-1780* (1890) は、17世紀初頭からの概括を二巻にわたって、大所高所から論じ、歴史、政治、経済、社会を取りあげながら、同時にこれまで論じられてこなかったと著者が述べる、日常生活の細かい記述が特徴をなしている。その中には隣人どうしの金銭の貸し借り、宿屋の経営状況、ピューリタン社会の娯楽のない生活習慣など、興味深い裏面史が描かれている。そして、最終章には捕鯨の歴史が綴られ、ニューイングランドでの捕鯨業の発生、そして、ごく初期からアメリカ原住民が捕鯨に参加し、厚遇されていたことなどが述べられている。

以上のように今回アティーナ・プレスの企画によって、ここに選ばれた5冊の著作は、いずれもいわゆる教科書的な通史が見落としてきた人々の生活感覚や日常的意識などを知る手がかりとなり、復刻されることの意義は少なからぬものがある。通史が打ち出している定説を見直し、あるいはその背後に潜む複雑な事情を汲み取るためにも、多くのアメリカ史家に一読をお勧めしたい書物である。

●【アメリカ研究基本シリーズ】Part 1～3 好評既刊! 詳しくはカタログをご請求下さい。

【発行】

Athena Press

株式会社 アティーナ・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石 4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

【取扱書店】